

山(山域・ルート)

大 姑 娘 山 (5,025m) 中華人民共和国 四川省 岷山山脈

【日時】2006年7月3日(月)～ 7月13日(木) (10泊 11日)

【メンバー】

東川・他 18名

【リーダー】

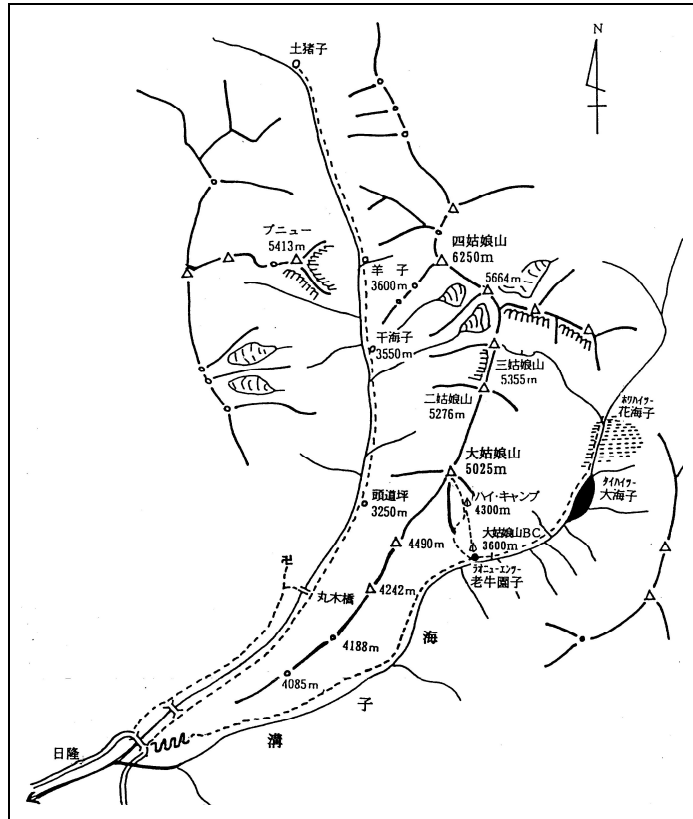
宮崎 勉 氏

(丸沼高原プモリ)

(計 19名)

【参加者内訳】

- 青森県 1名
- 山形県 1名
- 宮城県 1名
- 栃木県 1名
- 群馬県 5名
- 埼玉県 6名
- 東京都 1名
- 静岡県 1名
- 岐阜県 1名
- 奈良県 1名



【行動記録】

- 7月3日(月) 成田空港(9:30)⇒四川省成都空港(16:00) 岷山ホテル泊
- 7月4日(火) 成都(8:30)⇒都江堰市⇒巴郎山峠⇒日隆(18:20) 金昆ホテル泊
- 7月5日(水) 日隆(8:00)⇒老牛園子(ベースキャンプ地)(15:10) テント泊
- 7月6日(木) 老牛園子⇔大海子 (高度順応) テント泊
- 7月7日(金) 老牛園子(8:35)⇒ハイキャンプ地(4,300m)(13:05) テント泊
- 7月8日(土) ハイキャンプ地周辺で高度順応 テント泊
- 7月9日(日) ハイキャンプ地(6:50)⇒大姑娘山頂(5,025m)(10:10)⇒(10:30)
⇒老牛園子(ベースキャンプ地)(15:20) テント泊
- 7月10日(月) 老牛園子⇒大海子⇒花海子⇒老牛園子(高山植物観賞) テント泊
- 7月11日(火) 老牛園子(7:30)⇒日隆(11:50)⇒臥龍(17:30) ホテル泊
- 7月12日(水) 臥龍⇒都江堰市(市内観光)⇒成都市 ホテル泊
- 7月13日(木) 午前成都市内観光 成都空港(13:40)⇒成田空港(21:00)

【感想】

中国四川省にある山、大姑娘山(タークーニャン)に遠征してきた。

当会のメンバーが、高山植物がたくさん咲いていて、とても良い山と評価していました。それを聞いた今から4年前、大手山岳ツアー会社に参加申し込みましたが、出発直前にキャンセルしなければならない事情が発生し、残念ながら参加できなかった。あれから4年が経過し、年齢的にも5千メートル登頂は到底無理とっていました。ところが昨年1月、群馬の丸沼高原の「プモリ」というペンションにスキーで伺った時、オーナーの宮崎 勉(登山家)さんに4年前の話をしたところ、「東川さんこれかでも大丈夫ですよ、うちの企画は充分高度順応を行い、全員登頂を目指していますから」と誘われ参加することにしました。

出発日は7月3日で10泊11日の遠征計画です。10泊の内 入国時の2泊と出国時に2泊がホテル、中6日はテント生活です。装備などに不足があっても高山のテント生活に入ってしまうと、コンビニで補充と言う訳には行きません。装備品・薬品等慎重にチェックし大きなスポーツバックとリックサックに詰め込み、成田発9時30分の中国国際航空で出発しました。

参加者は18名で男性11名・女性7名でした。北京経由で四川省の首都、成都市に入りました。7月4日は、成都から登山基地のある「日隆(リーロン)」まで、専用のバスで高速道路を走って都江堰市へ、そこから山岳地帯に入ります。コンビニで飲料水を大量に購入し、悪路を時間かけて走りました。途中「巴郎山峠(パーロンシャン)4,320m」を越えます。この峠には「ブルーポピー」の群生地帯があり、それは見事でした。

成都市から日隆まで240Kmです、朝8時に成都を出発して日隆到着が18時20分ですから、約10時間のバスの旅でした。

翌日の7月5日は、日隆からベースキャンプのある「老牛園子(ラオニューエンツー)3,600m」までのトレッキングです。重いスポーツバックは馬が運んでくれます。我々はリックを背負い、牧歌的な雰囲気のある仏塔が幾つもある広い尾根を、約7時間歩きベースキャンプに到着しました。ベースキャンプは川沿いの開けたところにありました。二人用の黄色いテントがずらりと並び、中央にはモスグリーンの大きなテントが三つあります。一つは調理テントであとの二つは食堂になっていました。

キャンプ村の村長は45歳の女性で、名前は「何かあ)」さんといいます。小柄ですが大きな声でテキパキとポーター達に指示していました。とても明るい方で公職を定年退職し第二の職場だと言っていました。どこの国でも女性の進出が目立ちます。

テント村はお花畑の中にあります。テントを出るとお花を「すまんすまん」といって踏みつけて歩き回るくらい小さな可憐な花がたくさん咲いていました。

翌日の6日は高度順応日です。「大海子(ターハイツ)というお花が多い湖の辺までトレッキングしました。この日の夜はだいぶ雨が降りますが、二重に張られたテントは雨漏り

もなく、下からの雨水浸透もなく快適でした。

7 日の朝は小雨模様でしたが、ハイキャンプ地(4,300m)への移動です。はっきりしない登山道の周辺にはいろいろなお花がたくさん咲いていました。花に癒されながら薄い空気を胸いっぱい吸って 4 時間歩きハイキャンプに到着しました。

ハイキャンプ地は瓦礫の上に築かれたテント村です。でもよく見ると岩と岩の間にはブルーポピーやイワベンケイなどが精一杯咲いていました。

翌日の 8 日は高度順応日です。岩だらけの山や小さな花たちをデジカメで撮ったりして、キャンプ地の周辺を歩き回りました。

ベースキャンプに入った 6 日から毎日朝と夕方、パルスオキシメーターで血液中の酸素飽和度の検査が行なわれました。数値は下山後まで明らかにされませんでした。18 人とも高度順応がうまく行っているようです。いよいよ明日は目的の大姑娘山(5,024 m)の登頂です。夜は早めにシラフにもぐりこみました。

7 月 9 日(登頂日)午前 5 時起床・朝食 6 時・ハイキャンプ出発 6 時 50 分、天気は快晴です。

岩だらけの急斜面をゆっくりとしたペースで登ります。朝露に濡れた岩はとても滑るので注意しなければなりません。尾根に出ると大姑娘山の姉妹山、二姑娘山・三姑娘山・四姑娘山が出迎えてくれました。この四姉妹山の中では、四番目の四姑娘山が最も標高が高く 6,250m で雪に覆われた素晴らしい山でした。尾根から雪原を歩き、岩の急登を詰めたところに大姑娘山 5,025m の山頂がありました。山頂には経文を印刷した薄い布を幾重にも巻きつけた棒が一本立っていました。

18 名全員が登頂を果たしたのは午前 10 時 10 分でした。山頂から眺める景色は日本では味わえないものでした。気温は -4°C 、頂上には 20 分間ほど滞在し、その日の内にベースキャンプまで下りました。

大姑娘山登頂遠征で得た教訓は、挑戦する心を持ち続けること・出合いを大切にすること・感謝の心を忘れないことでした。そしてサミュエルウルマンの青春の詩を思い出しました。帰国は 7 月 13 日午後 9 時成田空港でした。

以上